

Jミルクが2022年7月29日に公表した「需給見通し(※2022年6月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

＜脱脂粉乳・バター等向けの仕向量は引き続き高位～幅広い需要拡大と最需要期の安定供給を～＞

・6月の需給実績について、都府県の生乳生産は引き続き前年並みに推移、北海道はこれまでの前年比伸び率が低下したこと、全国でも前年と同水準の生産となった。一方で飲用等向けは、物価上昇による節約志向や6月前半の平均気温が低かったこと等が影響し、前月よりも減少幅が広がった。その結果、乳製品向けは103.8%と前年よりも増加し、脱脂粉乳・バター等向けの仕向量は依然として高い水準となっている。脱脂粉乳・バターの推定出荷量が前年を上回っているものの、商品目とも高い在庫水準が継続している。

・7月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比98.8%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):100.9%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めに出る傾向を踏まえると需給見通しの予測値水準で推移している可能性が十分考えられる。

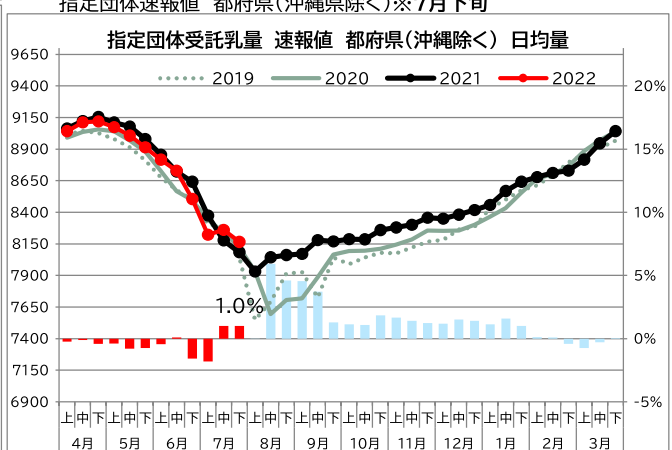
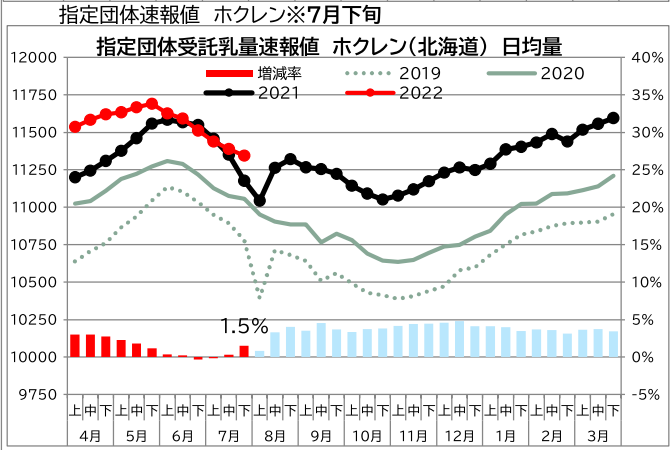
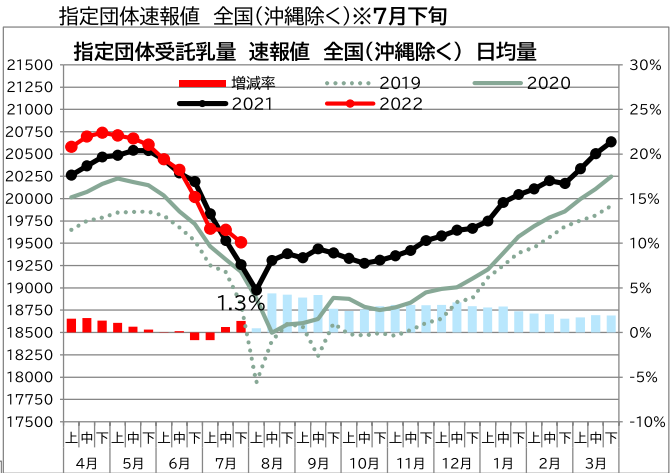
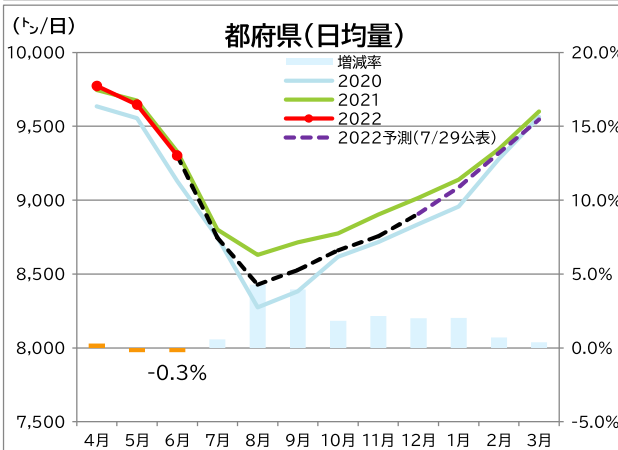
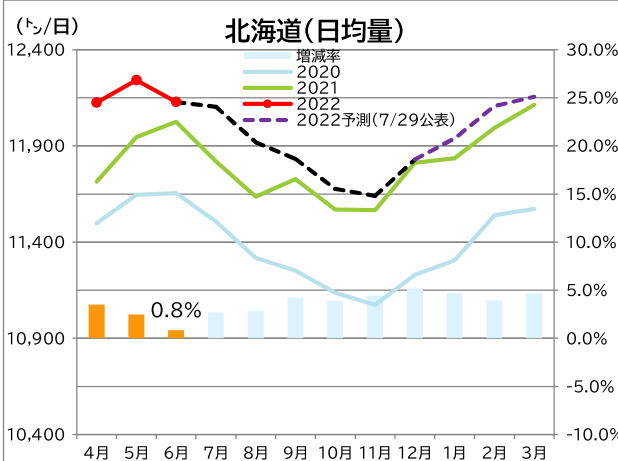
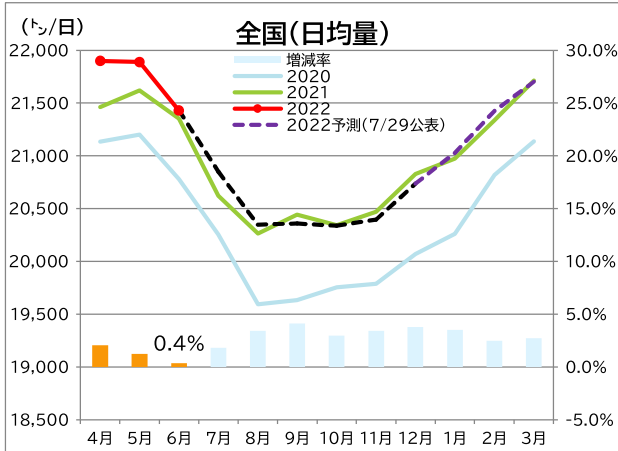
・直近の動向について、生乳生産は北海道・都府県ともに前年比伸び率が上昇しており、前年の受胎率のズレ等が影響している可能性が考えられる。一方、直近(8/1週)の牛乳類の販売個数は全品目通じて前年比95.0~100.0%の水準となり、荒天の地域もあったことで前週(7/25週)から販売個数は減少している。7月間でも前年を下回っているが、業態別ではDRUGチェーンが前年比104.6%(前々年度比107.9%)となっている。ヨーグルト類は前年並み～上回る水準での推移であり、なかでもドリンクタイプは前年を3週連続で上回っている。

・新型コロナウイルス感染拡大第7波による感染者数の高止まりが続いているなか、3年ぶりの行動制限のない夏季休暇となり業務用需要の回復が期待されるものの、家計負担が増加している現状を鑑みると家庭内を中心とした飲用需要は厳しい状況が続くと見込まれる。業界としては変化する情勢を注視しつつ、引き続き家庭内を中心とした幅広い需要拡大に取り組むとともに、学乳が再開となる9月の飲用最需要期の安定供給に向けた広域輸送体制の確認や準備が求められる。

【生乳生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

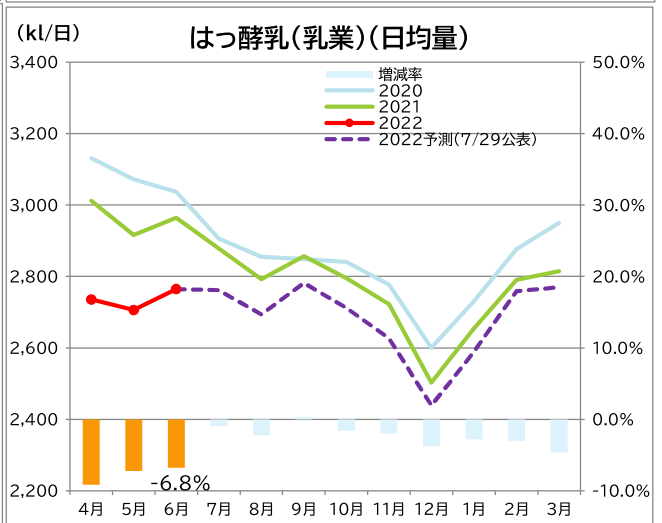
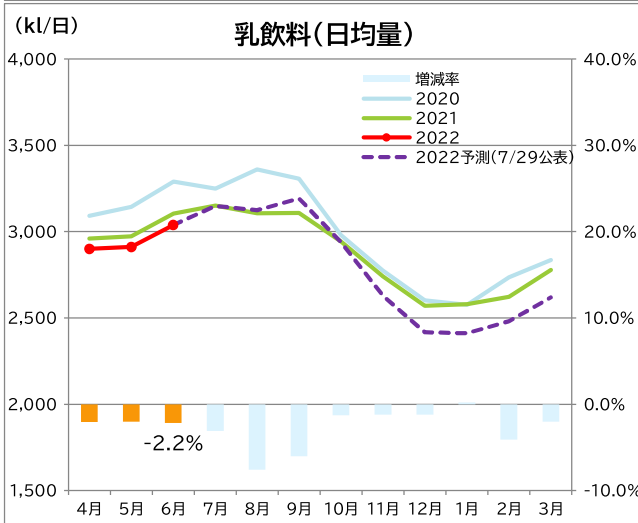
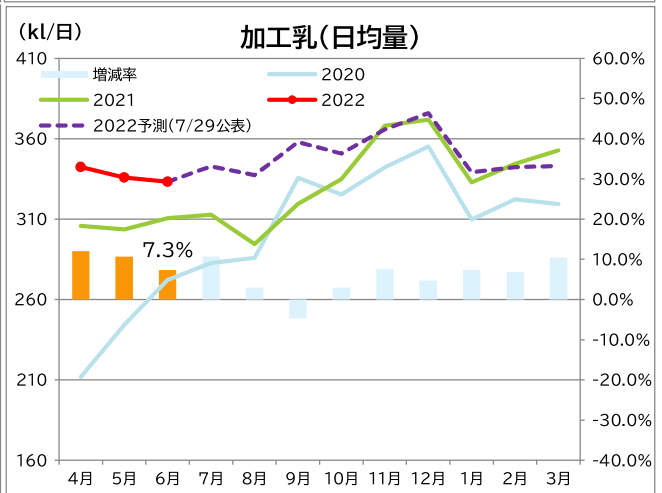
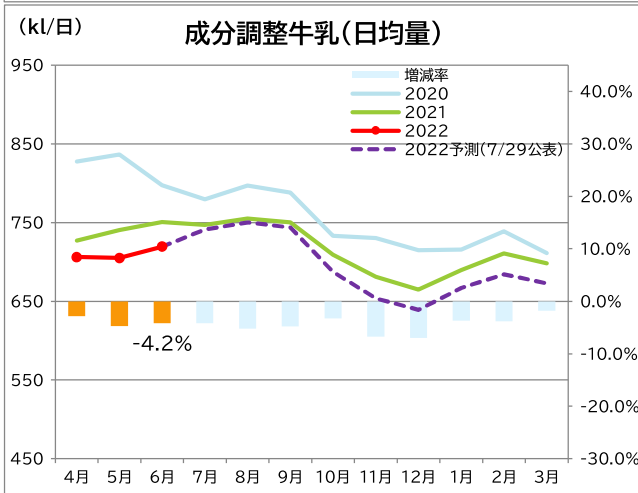
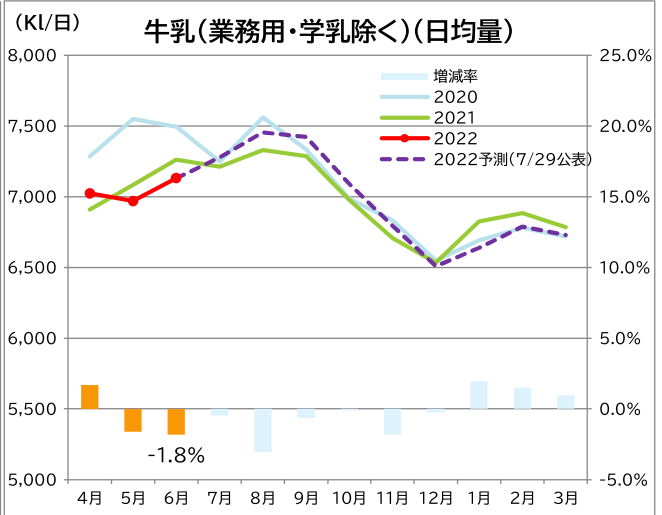
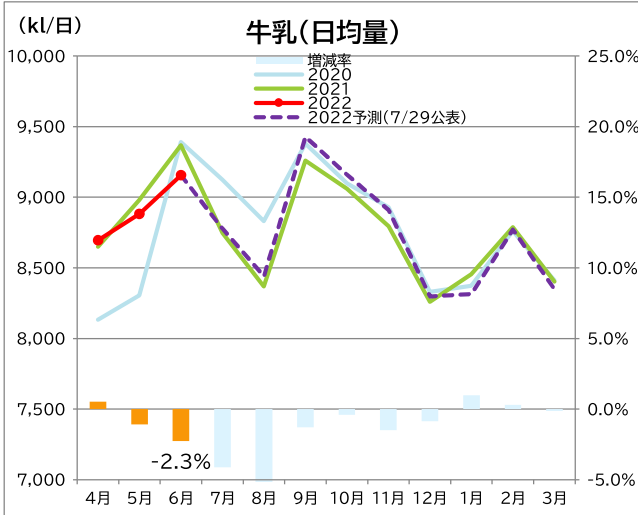
(1)6月の生乳生産量は、全国673千ト(前年同月比100.4%)、北海道364千ト(同100.8%)、都府県279千ト(同99.7%)。

(2)直近の指定団体速報値は7月下旬で全国が同101.3%、都府県(沖縄除く)が同101.0%、北海道は同101.5%となっている。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の牛乳等生産量は、牛乳275千kl(前年同月比97.7%)、成分調整牛乳22千kl(同95.8%)、加工乳10千kl(同107.3%)、乳飲料91千kl(同97.8%)となり、牛乳類合計では397千kl(同97.9%)となった。
 (2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.2%、「業務用」は同93.7%、「学乳」は97.7%。
 (3)はっ酵乳(乳業)は83千kl(同93.2%)と前年を下回って推移している。
 また、非乳業実績(5月)についても、同92.4%と前年を下回った。

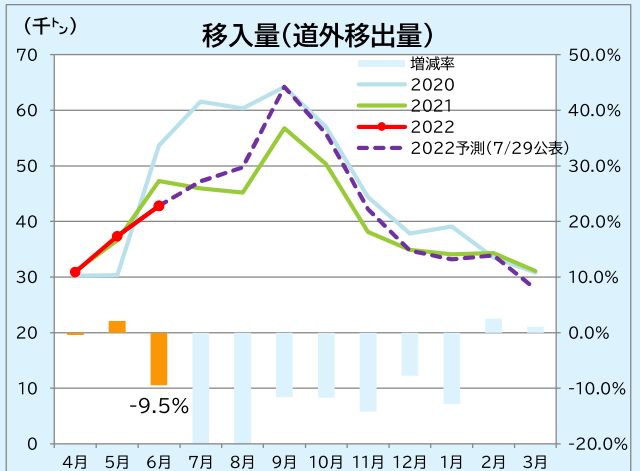
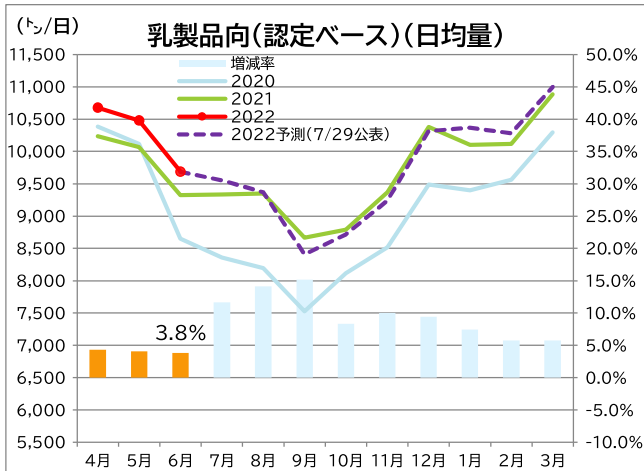
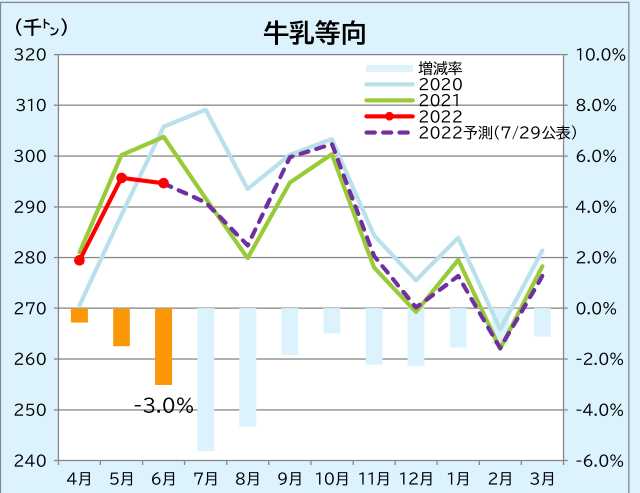
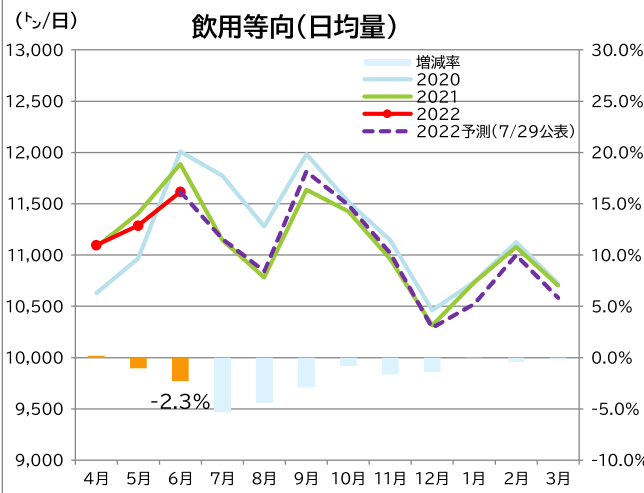
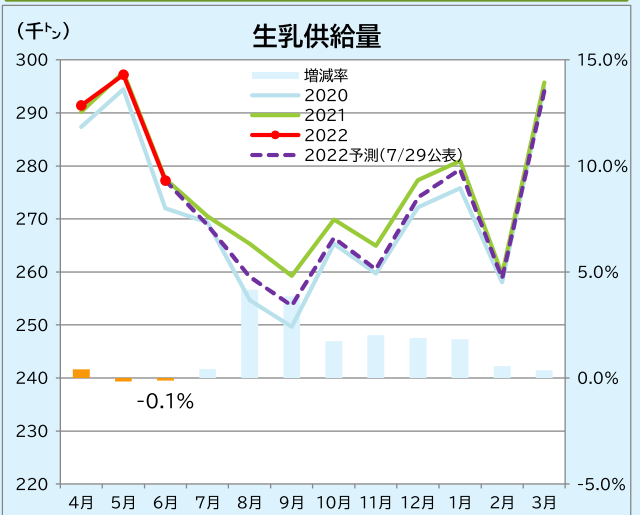
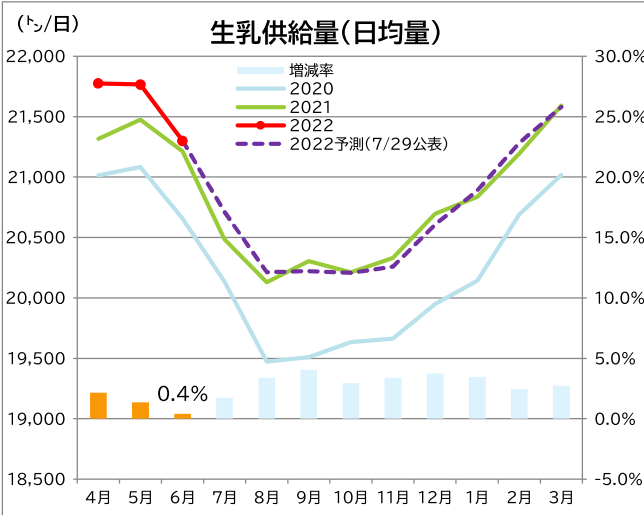


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳供給量は639千トン(前年同月比100.4%)、飲用等向348千トン(同97.7%)、乳製品向(認定ベース)290千トン(同103.8%)。
 (2)前年を上回る生乳供給量となったことに加え、飲用等向が前年を下回ったため、乳製品向は前年を上回った。

【都府県の生乳需給】

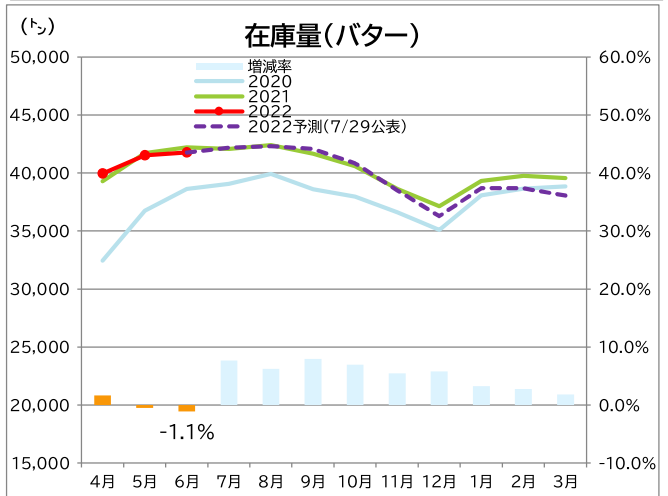
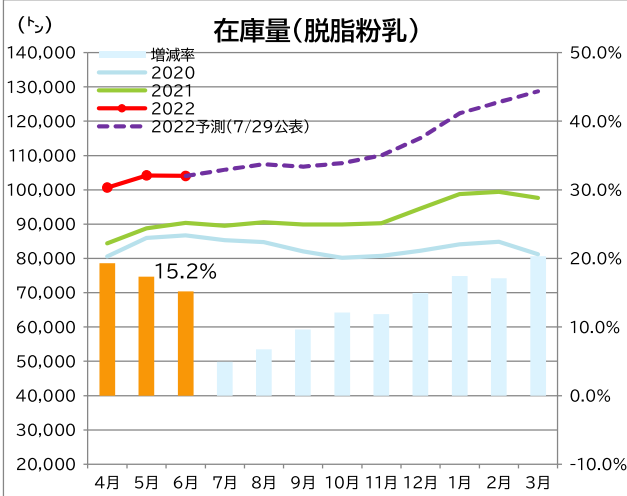
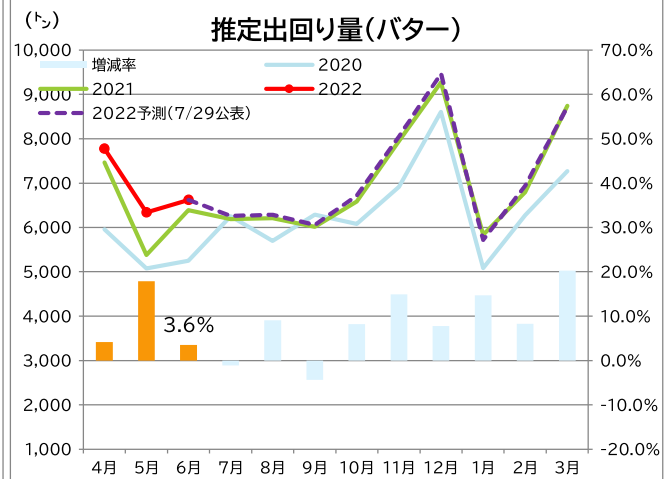
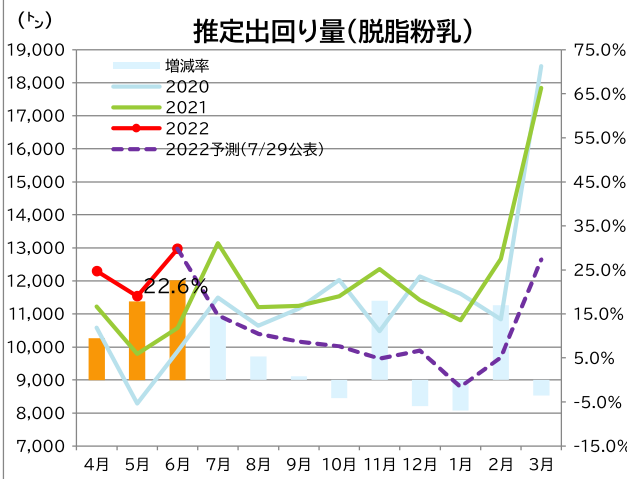
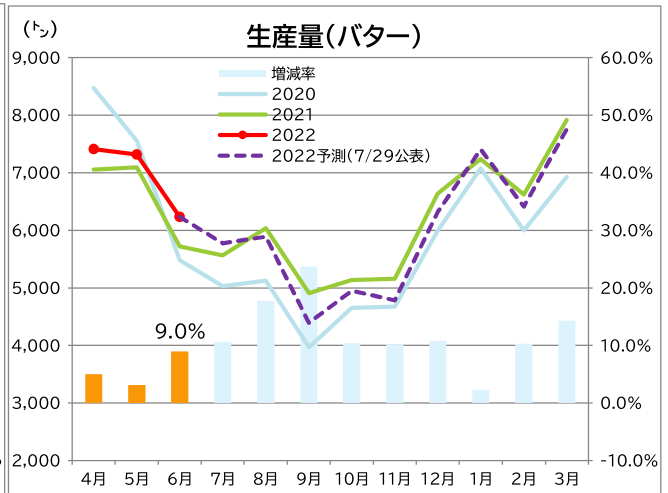
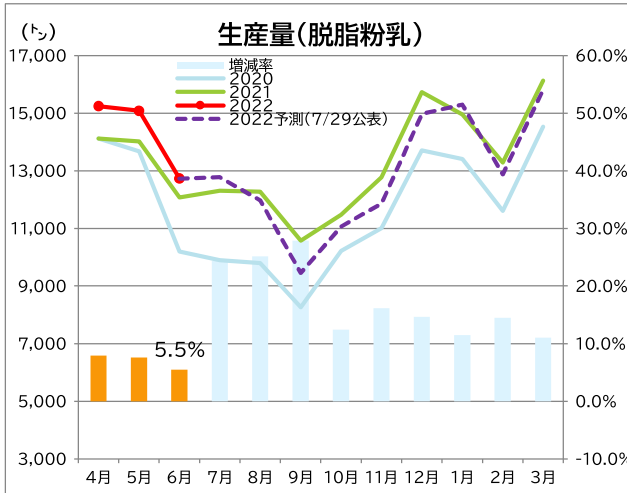
(1)6月は、生乳供給量277千トン(前年同月比99.9%)、牛乳等向295千トン(同97.0%)。
 (2)北海道からの移入量について、42.8千トン(同90.5%)と前年を大きく下回った。



【脱脂粉乳・バターの需給】

(1) 脱脂粉乳は、6月の生産量は12.8千ト(前年同月比105.5%)、推定出回り量は13.0千ト(同122.6%)。結果、在庫量は104.1千ト(同115.2%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりもわずかに減少した。
 ※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分が含まれている。

(2) バターは、6月の生産量は6.2千ト(同103.1%)、推定出回り量は6.6千ト(同103.6%)。結果、在庫量は41.8千ト(同98.9%)。生産量よりも出回り量は上回ったが、国家貿易による輸入売渡分を考慮すると在庫は前月よりもわずかに増加した。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)7月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比98.8%、成分調整牛乳:同98.8%、加工乳:同99.4%、乳飲料:同98.0%。

牛乳類では同98.7%

【参考】2020年度比…牛乳:98.7%、成分調整牛乳:96.8%、加工乳:96.0%、乳飲料:89.1%(牛乳類トータル:97.0%)

・販売単価は、牛乳:189.8円、成分調整牛乳:174.1円、加工乳:190.6円、乳飲料:149.6円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(8/1週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.0%、成分調整牛乳:同97.0%、加工乳:同97.9%、乳飲料:同95.4%。

牛乳類トータルでは同97.6%

【参考】2020年度比…牛乳:96.2%、成分調整牛乳:96.0%、加工乳:96.5%、乳飲料:87.3%(牛乳類トータル:94.8%)

・販売単価は、牛乳:190.6円、成分調整牛乳:174.3円、加工乳:190.2円、乳飲料:150.1円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

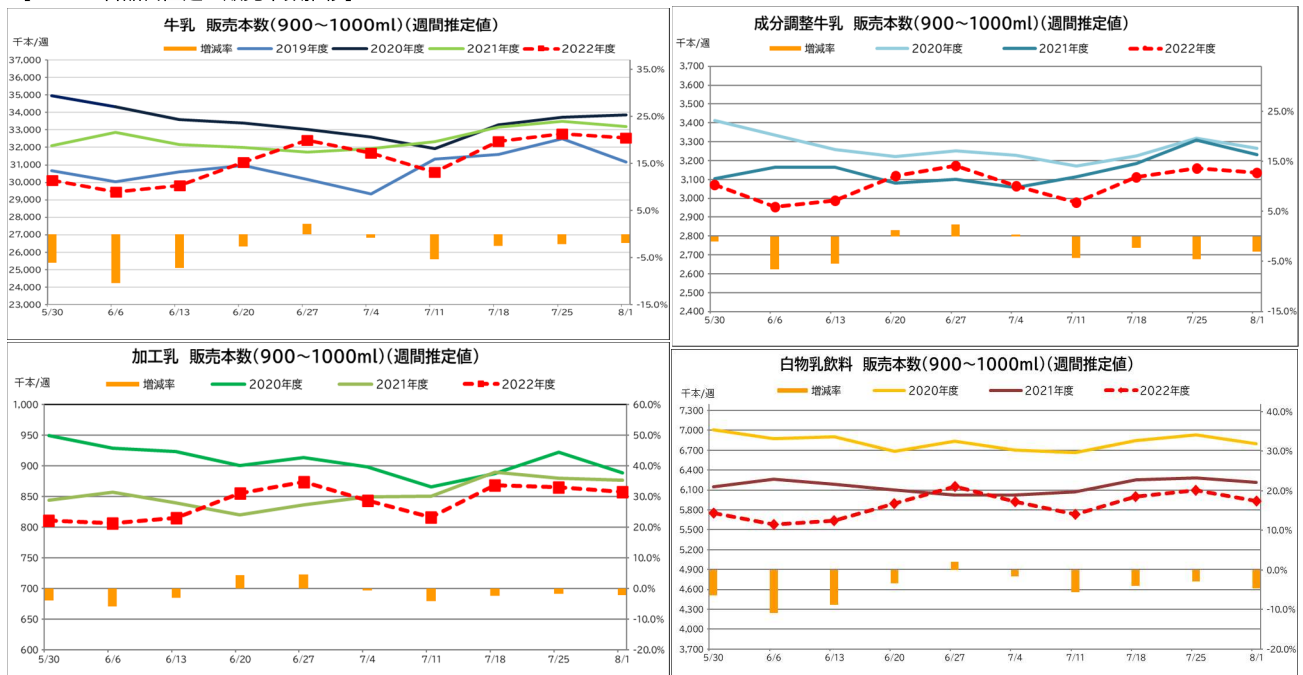
単位:千個、円

品目	区分	2022/2-	2022/3-	2022/4-	2022/5-	2022/6-	2022/7-
トータル	販売個数	151,428	164,151	163,794	172,087	170,992	186,323
	販売個数前年比	96.7	95.2	95.9	93.0	94.3	98.7
	販売単価	182.7	182.7	182.9	182.8	182.9	182.9
	販売個数	115,514	124,883	124,418	130,782	129,838	142,239
牛乳	販売個数前年比	97.7	95.4	96.0	92.7	94.7	98.8
	販売単価	189.4	189.5	189.9	189.7	189.9	189.8
成分調整牛乳	販売個数	11,599	12,596	12,656	13,149	12,977	13,756
	販売個数前年比	96.7	95.7	97.2	95.1	96.7	98.8
	販売単価	173.4	173.6	173.3	173.7	173.9	174.1
	販売個数	3,023	3,334	3,355	3,566	3,545	3,782
加工乳	販売個数前年比	99.3	98.3	99.7	97.2	98.5	99.4
	販売単価	190.6	190.4	190.9	189.9	189.5	190.6
乳飲料	販売個数	21,293	23,339	23,365	24,590	24,632	26,545
	販売個数前年比	90.6	93.3	94.3	92.6	93.4	98.0
	販売単価	150.3	150.1	150.0	149.9	149.8	149.6

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	6.13-	6.20-	6.27-	7.4-	7.11-	7.18-	7.25-	8.1-
トータル	販売個数	39,278	41,033	42,618	41,519	40,121	42,317	42,911	42,471
	販売個数前年比	92.7	97.7	102.2	99.2	94.7	97.3	97.6	97.6
	販売単価	182.9	182.8	182.8	182.9	183.0	183.0	183.1	183.8
牛乳	販売個数	29,835	31,157	32,421	31,683	30,594	32,332	32,795	32,546
	販売個数前年比	92.7	97.4	102.2	99.2	94.6	97.5	97.9	98.0
	販売単価	189.9	189.8	189.7	189.7	190.0	189.8	190.0	190.6
成分調整牛乳	販売個数	2,990	3,120	3,174	3,066	2,980	3,112	3,158	3,136
	販売個数前年比	94.5	101.3	102.4	100.3	95.7	97.7	95.5	97.0
	販売単価	173.6	174.1	174.1	174.4	173.7	174.2	174.5	174.3
加工乳	販売個数	815	856	874	844	816	869	865	858
	販売個数前年比	97.0	104.4	104.4	99.3	95.9	97.6	98.3	97.9
	販売単価	189.7	188.3	190.5	190.4	190.2	190.5	190.4	190.2
乳飲料	販売個数	5,638	5,900	6,149	5,927	5,730	6,004	6,093	5,931
	販売個数前年比	91.2	96.7	102.1	98.3	94.4	96.0	97.0	95.4
	販売単価	149.8	149.7	149.8	149.6	149.6	149.5	149.6	150.1

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(8/1週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

一昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	6.13-	6.20-	6.27-	7.4-	7.11-	7.18-	7.25-	8.1-
ドリンクタイプ	↘	→	→	↘	↘	↗	→	→
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	→
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

- ↘ : 前年比90%未満
- ↗ : 前年比105%以上110%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↗ : 前年比110%以上120%未満
- : 前年比100%以上105%未満
- ↗ : 前年比120%以上

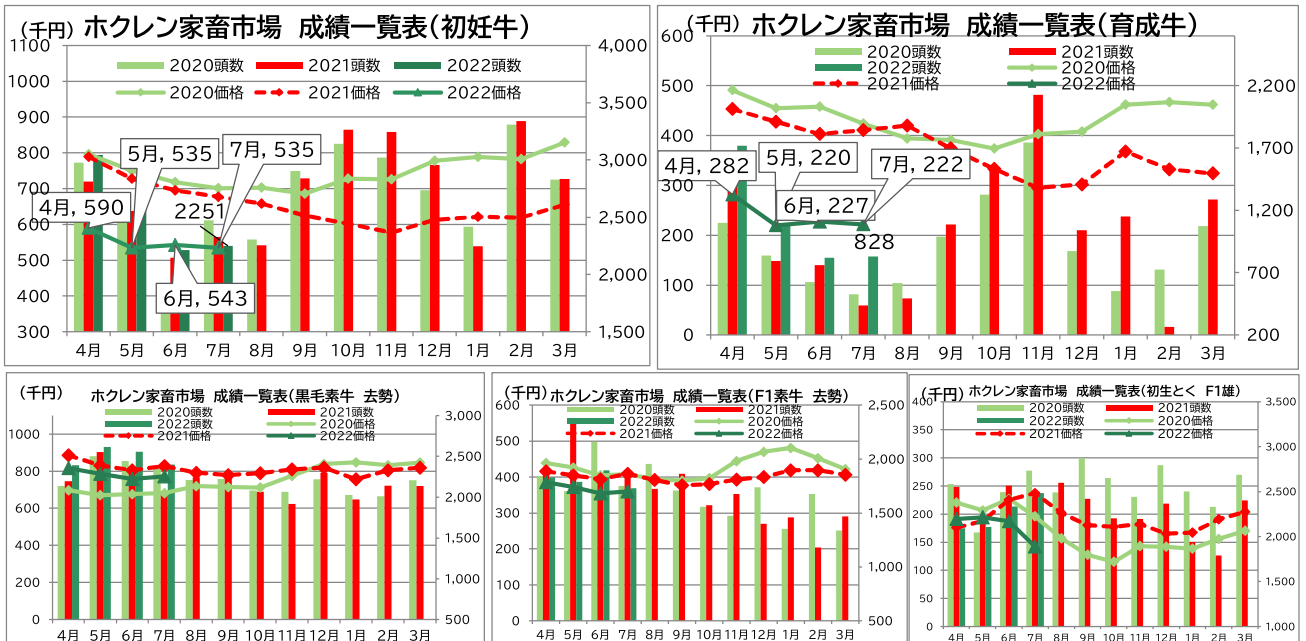
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)7月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は535千円(前年同期比79.0%)、育成牛価格は222千円(同54.0%)、和牛素牛(去勢)価格は772千円(同93.2%)、F1素牛(去勢)価格は360千円(同88.0%)、F1初生(雄)価格は142千円(同59.8%)。

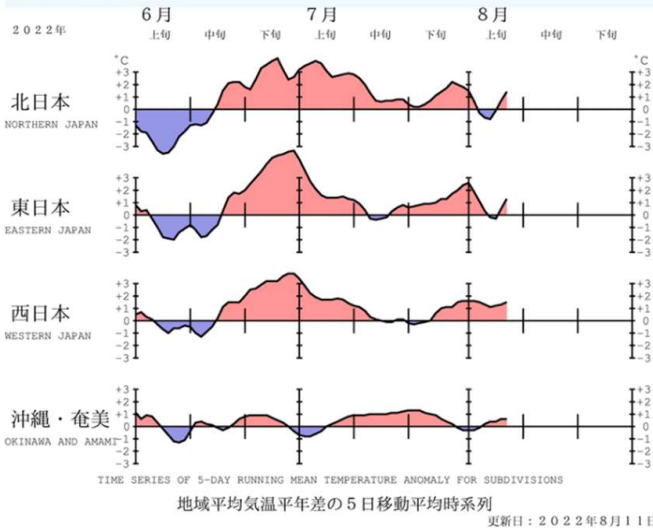
(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同96.7%、育成牛:同189.5%、和牛素牛(去勢):同115.8%、F1素牛(去勢):同92.3%、F1初生(雄):同101.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

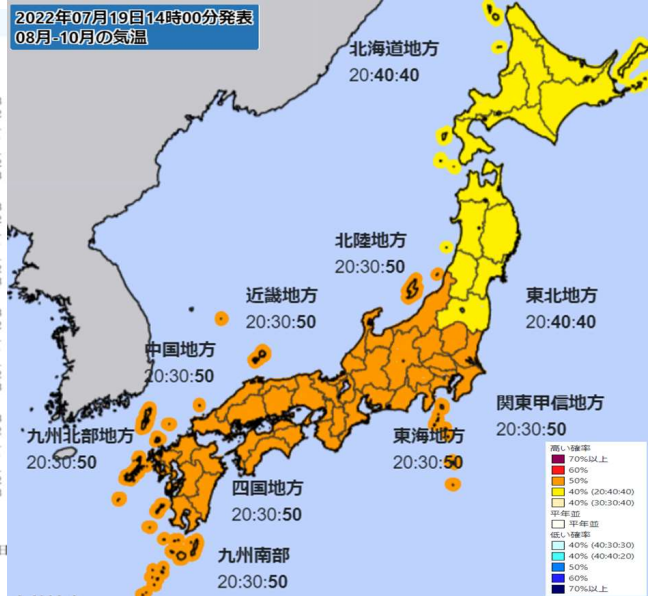


※参考資料

前3か月間の気温経過



上図では、5日移動平均値(前後各2日を含む5日間の平均値)を平均期間の真ん中の日に表示しています。平年値は1991~2020年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。

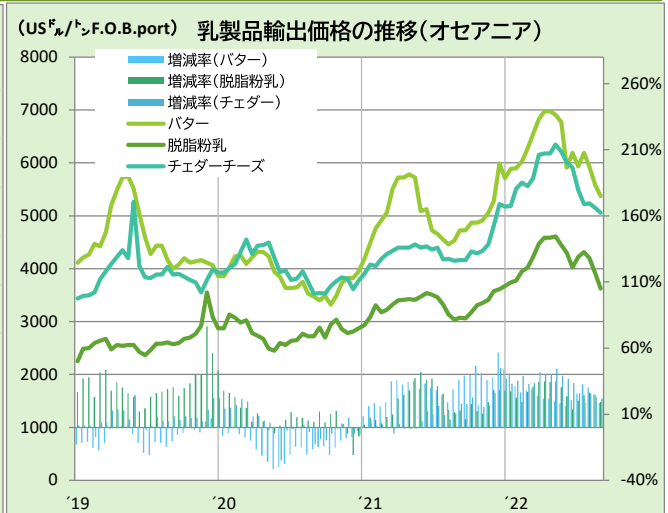
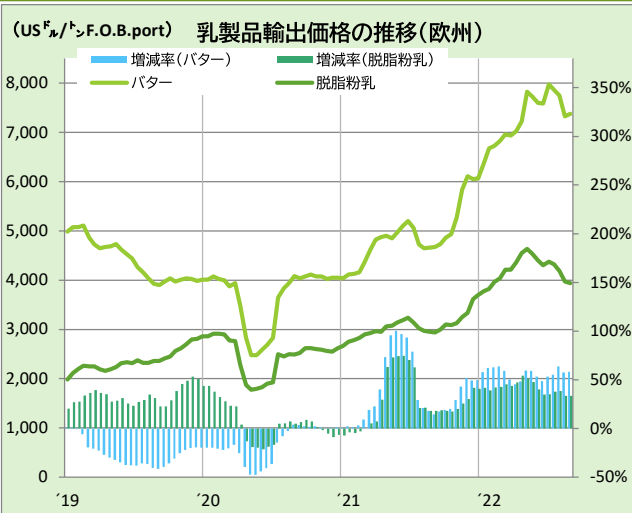


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(8月上旬)

- ・欧州:脱脂粉乳3,950ドル/ト、バター7,350ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳3,650ドル/ト、バター5,400ドル/ト程度、チェダーチーズは5,050ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」